

でんでら通信 第百二十五号 令和六年九月

秋の永代供養会

九月二十六日(木) 午後二時より

法話 本山巡教師 愛媛県観音寺住職、山崎忠司師
どうぞ皆さん、万障お繰り合わせの上ご参詣ください。

坐禅会

九月三十日(月) 十時に坐禅会を開催します。
みなさんのご参加をお待ちしております。

秋のお彼岸

今年の夏は、早くから毎日日差しが厳しく、気温が昔ではありえないほど高く、エアコンなしでは過ごせない日が続きました。(地球温暖化が心配でなりません。)

それでもようやく早朝や夕方には秋めいた季節となってきました。田んぼでは稲刈りが行われ、あちこちにとんぼが舞っています。そのうちに、彼岸花も咲いてくることでしょう。確実に季節は変わりつつあります。

そのような中、今月下旬には秋のお彼岸がまいります。今回は、臨済宗・黄檗宗の公式ネットの中から、布教師さまの法話を紹介させていただきます。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

長崎のチャンポン麺の発祥の由来をご存知でしょうか。

明治二十五年、陳平順(ちんへいじゅん)さんという19歳の若者が福建省から渡航してきました。最初にはリヤカーで行商をしていたそうです。日清戦争の影響で中国人である彼に世間の風当たりは強く、大変苦勞をされたそうですが、来日の七年後に「四海楼(しかいろう)」という中華料理屋兼旅館をオープンさせたのです。この四海楼で生まれたのが長崎のチャンポン麺です。平順さんは中国から長崎に渡って来る貧しい留学生に、具材が豊富で栄養価の高い中国風のうどんを振舞ったのだそうです。「自分も苦勞しながら周りの人に助けられて、ここまでこられたのだ。今度は私が貧しい若者を助け、恩返しをする番だ」。平順さんは留学生の若者を見ると決ま

って

「吃飯了嗎(シャンポンラマ)」

(日本語で「ご飯は食べたか」と聞いたそうです。この言葉がいつしか平順さんの作る中国風うどんの名前になったのだそうです。

お彼岸は今ある自分のいのちに対し、先祖に感謝する大切な行事です。お寺や先祖のお墓にお参りし、感謝の気持ちで手を合わせましょう。それは、自身生き方を大切にしていることにもなるのです。なぜなら、ご自身の命は先祖から脈々と続いてきた命に他ならないのですから。

先日、ある年配女性がお寺に来られました。お参り苦勞様ですねと話しかけると、

「私も八十歳までは頑張ってお寺に来ようと思いま

す」

と言われるのです。私は

「じゃあ元氣なうちに息子さんやお嫁さんに、仏様のことを引き継いでおいて頂いたら安心ですよ」

とお話すると、びつくりされたお顔で、

「とんでもない、息子も嫁も仕事で忙しくて、お参りに来られませんよ」

と言われるのです。ご自分も前の世代から、仏様に手を合わせる心を、引き継いできたのですから、その恩を次の世代に返していかなければならないと思うのです。平順さんが今あるのは頂いた恩のお蔭。今度は自分が恩を返す番であると、貧しい留学生にチャンポン麺を振舞ったように。

今年のお彼岸は、家族そろってお参りに行きましょう。それがご先祖様への恩返しです。

妙心寺派・勝樂寺住職 青井直信 師

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

布教師さまの思いは、年配の女性にはちよつと伝わらなかったかもしれませんが。

現代では、墓じまい、仏壇じまいなど子供や後継者に負担のないようにと、考えられる方も多くみえます。

それが良いか悪いかは申しません。それぞれの事情、関係性は当事者同士でないとわからないのですから。

ただし法話にもありましたように、思いを引き継ぐということは大切なことです。この秋のお彼岸という機会に先人への感謝、いのちのつながりに思いを寄せたいと思います。